

神戸市政調査会 第 7 回の議論について

議論のテーマ

「市民自治のありよう」について

前回の議論のまとめ

エコノバが本来の目的である資源回収という役割だけでなく、自然な交流を生む「コミュニケーション」の場として機能している点が評価された。明確な目的がなくても「気軽に立ち寄れる」ゆるやかな仕掛けが、市民が意図せず出会い、関係性を育むコミュニケーションの機会を創出している。このような「あずましい（津軽弁の“心地よく、落ち着ける”）」空間の創出は、効率や成果だけでは測れない「豊かさ」を追求した取り組みである。

多様な人々が「ただ居るだけで安心できる」場を確保し、そこで生まれる「コミュニケーション的合理性」を尊重することが重要だ。無理に参加を促すのではなく、対話や共感が自然に育まれる受容的な空間を行政が提供することこそが、市民のウェルビーイング向上と自発的な協働の土台を築く。

第 7 回の議論のポイント

人々が自然に集まり会話が生まれる「あずましい」空間と機会をいかにデザインするか？